

# 24Ae区の調査その二

三頁下段のようなかつての学校校舎の調査を終了後、旧制中学当時の遺構・盛土を掘削し、成瀬隼人正中屋敷関連の江戸時代の遺構調査へと進みました。発掘調査では、上から(新しい)堆積層・遺構から)順次掘削することで、遺跡の構造を丁寧に確認しつつ調査・記録を進めます。調査区南側(西門側)では地表下五〇cmほどで、名古屋台地の基盤層である黄褐色の粘土層ないしは硬い砂層に達しました。この基盤層を掘りこむ形で、多くの遺構が見つかりました。上段写真上では、径一m弱の方形をした痕跡が均等な間隔で見られます。これらをさらに掘り進めると、下から根石として据えられた平らな河原石が見つかり、屋敷建物の柱穴群であることが分かりました(下段写真)。建物は同じ場所建て直しがあつたようで、柱穴の重複している様子を各所で認めることができました。

調査区中央から北側に向かつては、地盤である名古屋台地自体が傾斜して次第に低くなっていきます。その標高差に対して、江戸自体以来、繰り返し整地(盛土)がなされ、平坦な土地を広げて土地が利用されていたことが分かりました。上段写真下では断面箱掘り状の溝の掘削と整地(盛土)が幾度にも渡って行われていた様子が見えます。この盛土の中には貝ブロックを確認することもできま



24Ae区調査写真2 江戸時代の調査  
【上:建物柱穴の跡が見つかった状況(南西より)、下:溝と整地(土盛)が繰り返し行われている状況(東より)】

# 西二葉町遺跡発掘通信

No. 3  
令和6年  
7月号

## 地元説明会を開催します

明和高等学校の生徒・教職員の皆様並びに近隣の皆様には、発掘調査への御理解と御協力をいただきまして、ありがとうございます。お蔭様で発掘調査は順調に進み、江戸時代屋敷建物の柱穴や井戸、陶器・瓦など様々な遺構や遺物が見つかり、明和高等学校の授業で生きた教材としても御活用いただいています。こうした発掘調査の成果を広く市民の皆様にお伝えするため、左記のとおり地元説明会を開催します。発掘された遺跡は、調査が終わると埋め戻され、二度と見られなくなってしまう。是非、説明会にお越しいただき、実際の遺構や遺物を御覧ください。(センター長 伊藤尚巳)

## 西二葉町遺跡地元説明会について

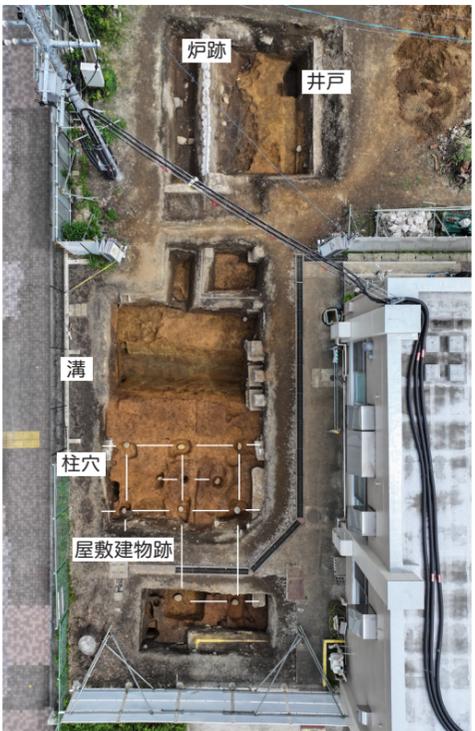
日時 令和六年九月十四日(土)・十五日(日)  
全体説明は、午前十一時、午後二時

内容 発掘調査現場での説明と出土遺物の展示をします。雨天などの場合、発掘現場での説明は中止となります。詳細は、八月二十日以降に、愛知県埋蔵文化財センターホームページでお知らせします (<http://www.maibun.com>)。問合せ先 愛知県埋蔵文化財センター調査課 〇五六七・六七・四一六三 川添職場携帯 〇八〇・二五七・四九九

## 西二葉町遺跡地元説明会のご案内



※学校敷地南側よりお入り下さい。 ※駐車場はありませんので、ご来跡は必ず公共交通機関をご利用下さい。



24Ae区調査写真3 江戸時代の遺構調査  
【遺構を掘り上げた状態の上空写真 上が北】  
柱穴、溝、井戸、炉跡などの配置がよく分かります。

## 西二葉町遺跡発掘通信 No. 3 令和6年7月号

編集・発行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24  
電話 (0567) 67-4161【管理課】4163【調査課】  
ホームページ <http://www.maibun.com>  
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>  
Instagram <https://www.instagram.com/aichimaibun/>  
X <https://twitter.com/aichimaibun/>  
印刷・協力 安西工業株式会社



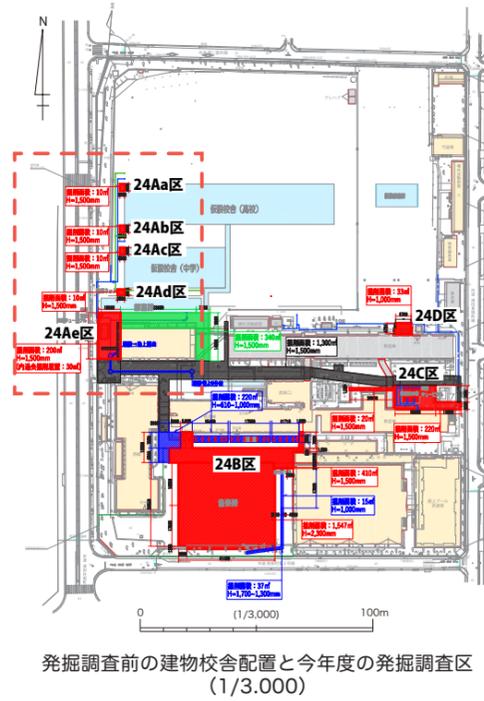
# 六月実施の発掘調査について

五月十三日より開始している発掘調査は、学校敷地西側【24A区の各調査区】へと進み、現在は敷地南側の音楽棟と体育館（明和館）の間の調査【24B区】へと進んでいます。本誌では、24A区とした学校敷地西側の調査成果について、ご簡単に紹介いたします。

## 学校敷地西側の調査

調査を実施したのは、仮設校舎建設地の西端で四箇所【北から24Aa区・24Ab区・24Ac区・24Ad区】と、食堂西の調査区【24Ae区】です。これら調査区は、今回の調査区の中で最も北側に設定されています。24Aa区から24Ad区は狭い範囲の調査であったため、土層の堆積状況を確認することに、調査の主眼を置きました。

24Aa区は、最も北側に設定された調査区です。上から、運動場の整地土、戦後の盛土を掘削すると、地表下1m20cmほど均質な黒色粘土の堆積層が見つかりました。この層の上面からは江戸時代の溝や柱穴が掘りこまれていましたが、黒色粘土層自体の中からは、古墳時代・古代の土師器・須恵器片が出土しましたが、堆積層を詳細に見ると、厚さ5cmほどで水平に堆積しており、焼土・炭化物や地



発掘調査前の建物校舎配置と今年度の発掘調査区 (1/3,000)

本誌では、赤の破線枠で囲みました学校敷地西側の調査区 (24Aa区・24Ab区・24Ac区・24Ad区・24Ae区) についてご紹介いたします。

山（基盤）の土が斑状に含まれていました（二頁下段写真上の白矢印）。調査範囲が狭いため断言はできませんが、この堆積層の様相は、竪穴建物跡などに見られる貼床の形状にとってもよく類似しています。そのため、この付近には居住など、当時のヒトの安定した活動痕跡が保存されているものと考えられます。

一方、24Ab区・24Ac区・24Ad区の調査で確認されたのは、江戸時代以降の遺構・遺物のみでした。24Ab区では深さ1mを越えるような断面形状が箱掘り形をした大きな溝が南北方向に伸びていました。その上には建物の柱穴があり、なから大きく扁平な河原石を用いた根石が見つかりました（三頁上段写真右）。24Ac区は、制約上すべてを掘削調査できなかつたものの、江戸時代の堆積層（整地層・盛土）から、常滑焼甗の底部が正位の状態（容器として通常の立てられた状態）で出土しました。水溜あるいはトイレなどに設置されたものの可能性が考えられます。24Ad区では、根石を含む柱穴が三基見つかりました。その周囲にも同じ大きさの遺構が見つかり、屋敷建物の立て替えなどにより、同じ場所に繰り返し柱が建て直されていたものと考えられます。江戸時代の遺構・遺物は、いずれも成瀬隼人正中屋敷に関連する遺構群と推定されます。

## 24Aa区の調査



24Aa区調査写真  
【上：調査区北壁土層断面、下：古代土師器・須恵器出土状況】

焼土・炭化物を含む堆積層（写真白矢印の層）は、厚さ5cmほどで水平に堆積しています。調査区東壁では、この層から古代の土師器・須恵器が出土しました。この堆積層は、調査区北側半分全体から、調査区周囲に広く認められます。竪穴建物跡の貼床である可能性があります。

## 24Ab区の調査



24Ab区調査写真  
【上：調査区全景（北より）、下：調査区全景（東より）】

扁平な河原石は柱の根石と考えられます。深さ1m以上もある断面箱掘りの溝は、柱穴よりも前に設けられました。

## 24Ad区の調査



24Ad区調査写真  
【上：調査区全景（北より）、下：調査区全景（西より）】

穴の中からは根石が据えられた状態で見つかっています。いずれも江戸時代の建物柱穴の跡と考えられます。

## 24Ae区の調査その一

調査面積二〇〇㎡とまとまった範囲が対象となった24Ae区では、時代ごとに調査を実施することができました。三頁下段の写真は太平洋戦争後の状況を示すもので、右側は旧校舎のコンクリート基礎を上空から撮影した写真です。第一高等女学校建設時の建物



24Ae区調査写真1 近代以降の調査  
【右：近代以降の学校校舎建物跡基礎の様子（上が北）、左上：調査区西壁に残る第一高等女学校建設時建物基礎、戦争空襲時の焼土・灰の堆積層（白矢印の層）その下には江戸時代の整地層が見られます。】

の建物を中心に、成立当初の明和高等学校の校舎の様子を見ることができ、敷地縮小により校舎西端が取り壊されたもので、その際に側溝を変更・つぎ直した場所も確認されました（黄色矢印）。さらに掘削すると、調査区西端で、埋もれていた第一高等女学校校舎基礎が見つかりました（写真左上）。また、調査区北側では、太平洋戦争の空襲による焼土・灰層の堆積も確認され、戦争被害の激しさを物語るものとなっております（写真左下の白矢印）。

【※四頁に続く】